

国語科学習指導案

日 時 平成22年5月21日（金）2校時

対 象 2年5組（男子20名 女子20名計40名）

指導者 教 諭 堅 山 道 代

1 単元名 図で読む、図を読む

2 単元設定の理由

(1) 教育的意義

本単元は、「ことばの力」を高め、豊かな言語生活を営む生徒を育成するために、課題解決学習における、解決に至るまでに必要な知識・技能を身に付けさせたいと考え、特設したものである。

現代では、情報化社会が進み、携帯電話やパソコン等を使って様々な情報を入手したり、時を選ばずだれとでも連絡をとったりすることができる。また、文章を読むことを苦手とし、新聞よりテレビ、文庫本よりマンガを好む人が多くなり、活字離れが定着しつつある現状がある。しかし、その一方で相手や場面に応じたコミュニケーションを適切に行うことができない人が増えてきている。これは、本校生徒も例外ではなく、人との直接的なかかわりを苦手とする生徒が増えてきている。また、このようなコミュニケーションの不足から、相手の気持ちや考え、意図を適切に読み取ったり、自分の気持ちや考え、意図を適切に表現したりすることが十分にできていない生徒が増えてきている。

本単元で教材として扱う説明的文章とは、ある思想や発想をもつ筆者によって、事実を基に論述された文章である。筆者は、自分の考えを読み手により分かりやすく、説得力があるように伝えるために、言葉を選んだり、文章構成を練ったりしながら書いている。しかし、そうして書かれた文章を読み手が正確に読み取ることができるとは限らない。なぜなら、読み手が「読む」方法を知らなければ、どれだけ分かりやすく、言葉を駆使した文章であっても、的確に理解することはできないからである。

そこで、本単元では、「ことばの力」を更に高めさせるために、説明的文章を読み、その内容を構造化する活動を取り入れることにした。文章を構造化する活動を通して、生徒はキーワードに着目したり、文章の展開に着目したりしながら、内容を吟味・検証し、文章中における語句と語句や文と文、段落と段落の関係をとらえることができると考える。そして構造化するための視点に気付く、構造化することによって文章内容をよりの確に理解することができるものと考え。

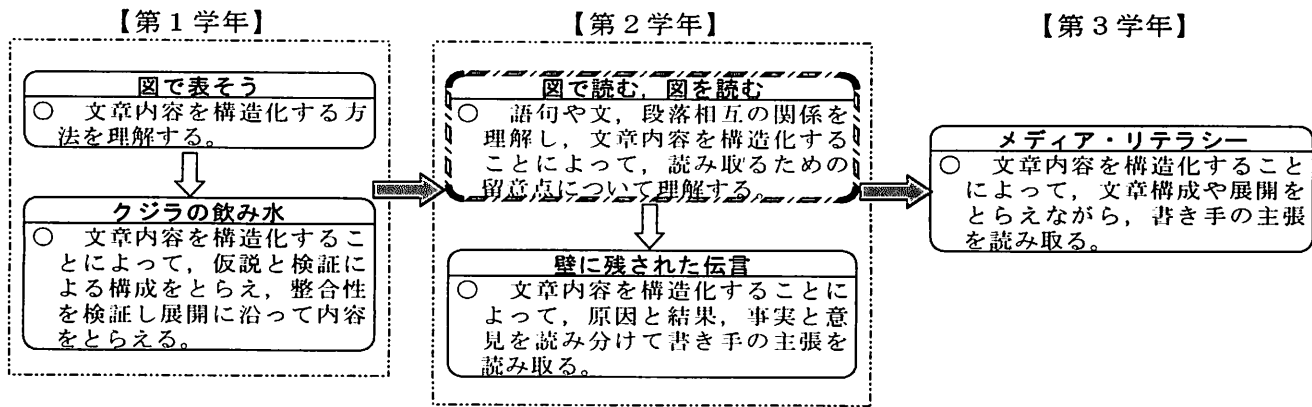
併せて、文章Aと文章Bの二種類の教材を用いて、文章Aを読む班と文章Bを読む班に分けて班で互いの考えを批判し合う活動を通して、生徒自らの力で互いの吟味・検証力を高めさせたい。

(2) 社会的意義

近年、さまざまな情報機器の普及により、わたしたちは簡単に情報を発信したり受信したりすることができるようになってきた。その情報は膨大な量であり、中には信憑性に欠けるものも含まれている。そのような社会状況の中でわたしたちは、どの情報が正しく、必要なものなのかを読み取り、取捨選択する力が求められている。

そこで、本単元において、文章の内容を的確に読み取るための方法を学ばせるために、説明的文章を教材として用いた。そして、文章を構造化する活動、更に構造化されたものを基に文章内容を推測し、文章化する活動を通して、文章を的確に読み取るための留意点に気付かせたい。また、その留意点を他の学習でも繰り返し生かすことによって、的確に読み取る方法を確実に習得することができる。このように、文章内容を的確に読み取るための留意点に気付かせ、習得させることは、現代の情報化社会の中で生きていく上で、大変有意義であると考え。

(3) 連関的意義



3 単元の目標及び評価規準

【単元の目標】

- (1) 文章中における語句と語句や文と文、段落と段落の関係をとりえながら、進んで吟味・検証し、積極的に課題に取り組んだり、班活動に参加したりすることができる。(国語への興味・関心・態度)
- (2) 文章中における語句と語句や文と文、段落と段落の関係をとりえながら、その関係を構造化することができる。(読む能力)
- (3) 文章内容を構造化することによって、内容を的確に読み取るための留意点に気づき、文章内容を理解することができる。(読む能力)
- (4) 構造化されたもの(構造図)を基に、語句と語句や文と文、段落と段落の関係をとりえながら、内容を文章としてまとめることができる。(書く能力)

具体的には次に掲げる内容を重点的に指導する。

評価の観点	評価規準	学習指導要領との関連
国語への関心・意欲・態度	① 語句と語句や文と文、段落と段落の関係について、進んで吟味・検証したり、その関係を構造化しようとしたりしている。 ② 構造化されたものから、進んで文章内容を理解しようとしている。 ③ より分かりやすい構造図にするための視点について考え、積極的に話し合いに参加している。	
書く能力	④ 構造図に表された語句や矢印を手がかりに、文章の内容をとらえ、構成を考えながら文章としてまとめている。	イ 構成
読む能力	⑤ 文脈の中における語句の意味や、それぞれの文や段落の内容を理解し、キーワードをとらえている。 ⑥ 語句と語句や文と文、段落と段落の関係について吟味・検証し、それぞれの関係を構造図に表している。 ⑦ 文章内容を構造化することによって、読み取るための留意点に気づき、文章内容を的確にとらえている。	ア 語句の意味 イ 文章の解釈 ウ 文章の構成
言語についての知識・理解・技能	⑧ 文章中の抽象的な概念を表す語句や類義語と対義語等の語句の果たす役割や意味について理解を深めている。	イ 言葉の特徴

4 単元の指導計画

(1) 指導の手立て

ア 生徒の実態から

本学級は、「読むこと」の学習において、次のような実態が見られる。

- ・ 学習意欲があり、班での話し合い活動や全体での意見交換等に積極的に参加する生徒が多い反面、考える過程を面倒に思ったり、自分の意見に自信がもてなかったりして、他の生徒の意見に流され、多面的に考えたり、より深く考えたりしようとする姿勢が見られない生徒がいる。
- ・ 学習したことを、次の学習に生かそうとする生徒が多いが、基礎的・基本的な内容が十分に定着していないため、考えや意見に深まりや広がりが見られない生徒がいる。
- ・ 説明的文章における学習で、キーワードをとらえたり、段落と段落の関係をとりえたりして、内容を正しく理解することを苦手とする生徒や、理解するまでに時間がかかる生徒がいる。

イ 本校の研究内容との関連から

① 「構造化」による吟味・検証力の育成

説明的文章を読むときに、内容を的確に理解することを苦手としていたり、理解するまでに時間がかかったりする生徒がいる。それは、吟味・検証力が十分高まっていないことが大きな原因であると考えられる。本単元では、吟味・検証力を育成するために、文章を構造化させたり、構造化されたもの（構造図）から内容を推測し、文章化させたりする活動を設定することにした。このような学習を展開することによって、吟味・検証の仕方や的確に文章を読み取るための留意点や方法等を習得し、吟味・検証力を高めていくものとする。

具体的にはまず、ある文章を構造化したモデル図を用いて、構造化するときの基本的な方法を理解させる活動を設定した。

次に以下の二つの活動を設定した。一つ目は、班ごとに文章を読み、その文章内容を構造化する活動である。構造化するためには、まず、文脈の中における語句の意味を的確に理解した上で、キーワードや接続語などの文章の中で重要な役割を果たす語句をとらえたり、それぞれの文や段落の内容を的確にとらえたりすることが必要である。さらに、語句と語句や文と文、段落と段落の関係を理解し、並列や対比などを判断する必要がある。このように内容や関係をとらえ、構造化することによって、吟味・検証力が高まるものとする。二つ目は、構造図の語句や矢印、記号等を手がかりにして内容を推測し、文章化する活動である。文章化するためには、構造図の的確さやキーワードのもつ意味、矢印などの記号の意味を考える必要がある。すなわち、構造図から文章を読み取る過程で吟味・検証力が高まるものとする。

また、これらの活動を通して、生徒は的確に文章を読み取るための留意点や文章内容を構造化する方法を習得することができる。最後に、これらの力を定着させるために、単元の終末に個人で文章を構造化させる時間を設定した。

② 「ことばの力」の共有化の工夫

これまでも、ペアやグループ活動で意見交換をさせながら、互いの考えの不十分さや、思い込みに対して、ある程度の補足や修正をさせてきた。しかし、まだ自分の意見に自信がもてず、他の生徒の意見に流され、多面的に考えたり、より深く考えたりしようとする姿勢が見られない生徒もいる。また、話し合いの際に他の意見に対して、批判的な発言をすることに抵抗を感じ、互いの考えに深まりや広がりが見られないこともある。

そこで、それぞれが構造化したものや文章化したものを、互いに批評・批判し合いながら改善点を見付け、より練られたものへと加味・修正していけるように、学級全体をA班とB班の二つに分け、文章Aと文章Bの二種類の教材を用いて、以下のように取り組ませた。

	文 章 A	文 章 B
A 班	構 造 化	文 章 化
B 班	文 章 化	構 造 化

例えば、文章AをA班に構造化させる。B班には、A班が構造化したものを見て内容を推測させながら、文章化させる。この活動を文章Bにおいても行っていく。そして最後に互いの書いたものを基に、図の矛盾点や不十分な点を指摘し、批判し合わせる。このように、文章の内容や語句と語句、文と文、段落と段落の関係について、十分に吟味・検証し合わせることによって、考えを深めさせたり広げさせたりすることができると思った。

また、異なる二種類の文章を用いて、それぞれの文章の特徴を比較させることによって、対比や並列、文章構成の文章における効果等に気付かせることができると考えた。

(2) 単元の指導計画(全4時間)

進 程	主な活動内容	時 間	指導に当たっての手だて	評 価
導 入	1 単元を概観し、学習目標・学習活動を確認する。 2 文章AまたはBを読み、語句と語句や文と文、段落と段落の関係を探りながら、読み取った内容を構造化する。 3 文章AまたはBを読み、班ごとに文章中の語句と語句や文と文、段落と段落の関係を探り、読み取った内容を構造化する。 4 同じ文章を読んだ者同士で4人組をつくり、それぞれの構造化図を批判し、より分かりやすい構造化図を班で練り上げる。	2	- モデル図を用いて、文章を構造化する方法を理解させる。(語句の抽出の仕方、矢印、囲みなどの記号の使い方、並べ方等) - 全8班を二つに分け、文章AまたはBを読ませる。 - それぞれの文章の内容を各班ごとに話し合いながら、構造化させていく。 - 基本の矢印や記号の使い方以外のものを用いて表現してもよいことを説明する。 - それぞれの班員が構造化したものの見せ合い、画用紙に、より内容が分かりやすくなるように構造化図をかかせる。	評価規準 ①⑤⑥⑧ (観察・ワークシート)
展 開	5 文章Aを読んだ班と文章Bを読んだ班の構造化図を交換し、互いの構造化図から内容を推測し、文章化する。 6 構造化したものと文章化したものとを比較し合い、構造化図の適否や整合性について、話し合う。 7 文章の内容を的確に読み取るための留意点や方法について話し合う。	1 (本 時)	- 読んだ文章が異なる班同士を組み合わせ、構造化したワークシートを互いに交換し、語句や記号の意味を推測しながら、内容を文章化させる。 - 構造化図と文章化したものとを比較し合い、構造化図の適否や整合性について批判し合わせる。 - より分かりやすい構造化図にするための視点について話し合わせる。 - 話し合いを通して、語句と語句や文と文、段落と段落の関係を的確に読み取るための留意点の重要性を理解させる。 - 読み取るための視点を基に、文章中に印を付けながら読むと、内容を構造化しやすく、正確に読み取ることができることを理解させる。 (読み取るための留意点) - 語句と語句や文と文、段落と段落の関係を明確にとらえる。 - 事実と意見を区別してとらえる。 - 要点を的確におさえる。	評価規準 ②③④⑤ ⑦⑧ (観察・ワークシート)
終 末	8 文章Cを読み、読み取るための視点を基に、各自で文章内容を構造化する。 9 構造化図と文章を比較し、適否や整合性を吟味・検証する。 10 文章の内容を構造化することによって、よりの確に内容を読み取ることができることを確認する。	1	- 語句と語句や文と文、段落と段落の関係を読み取るための留意点を確認させながら、各自で内容を構造化させる。 - ペアで構造化図と文章を比較し、適否や整合性を吟味・検証させる。 - 文章内容をよりの確に読もうとするときに、構造化の方法が有効であることを確認させる。	評価規準 ①②④⑤ ⑥⑦⑧ (観察・ワークシート)

5 本時の指導（3/4）

(1) 指導目標

語句と語句や文と文、段落と段落の関係をとらえながら、矢印や囲みなどを用いて文章を構造化することによって、内容をより適切に読み取るための留意点を理解させる。

具体的には、評価規準⑦に即して、次の「読むこと」に関する能力の育成を目指す。

十分達成されている	語句と語句や文と文、段落と段落の関係を理解し、文章を構造化しながら、内容をより適切に読み取るための留意点について理解するとともに、説明的文章を読む方法を習得している。
おおむね達成されている	語句と語句や文と文、段落と段落の関係を理解し、文章を構造化しながら、内容をより適切に読み取るための留意点について理解している。
達成していない生徒への手だて	語句と語句や文と文、段落と段落の関係を理解させるために、構造図ともとの文章とを比較させ、内容をより適切に読み取るための留意点を確認させる。

(2) 目標行動（G）

文章内容を構造化したり文章化したりする活動を通して気付いたことを、例えば以下のようにまとめ、発表することができる。

- ・ 文章内容を矢印や囲みなどを使って図で表していけば、よりの確に内容を読み取ることができるということが分かった。
- ・ 構造化したものをしながら内容を推測し、それを文章化することによって、接続語や指示語、キーワードなどの文章を適切に読み取るための留意点分かった。
- ・ 文章を読むときには、語句と語句や文と文や段落と段落の関係をとらえて構造化しながら読むと、内容が理解しやすくなることが分かった。

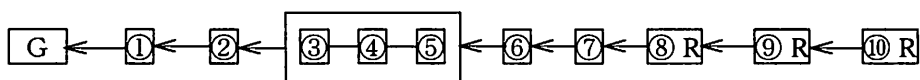
(3) 下位目標行動

- ① 文章を構造化する活動を通して、気付いたことをまとめることができる。
- ② 班での話し合いをもとに、文章を適切に読み取るための留意点を例えば次のようにまとめ、発表することができる。

- ・ 語句と語句や文と文、段落と段落の関係を明確にとらえる。
- ・ 事実と意見を区別してとらえる。
- ・ 要点を的確におさえる。

- ③ 文章Aについて、構造図と文章化したものと、もとの文章とを比較し、整合性を確認することができる。
- ④ 文章Aについて、構造図と文章化したものを比較し、矛盾点や不十分な点を指摘し合い、批判し合うことができる。
- ⑤ 文章Aを構造化した班と文章化した班でグループを作り、互いが書いたものを読み合うことができる。
- ③ 文章Bについて、構造図と文章化したものと、もとの文章とを比較し、整合性を確認することができる。
- ④ 文章Bについて、構造図と文章化したものを比較し、矛盾点や不十分な点を指摘し合い、批判し合うことができる。
- ⑤ 文章Bを構造化した班と文章化した班でグループを作り、互いが書いたものを読み合うことができる。
- ⑥ 推測した内容を、班員と話し合いながら、文章化することができる。
- ⑦ 異なる文章を読んだ班の構造図を見て、語句や矢印などから文章内容を推測することができる。
- ⑧ R 本時の学習課題を「どのように構造化すると、内容がより適切に伝わるのだろうか」と確認することができる。
- ⑨ R 本時の学習の流れを確認することができる。
- ⑩ R 本時の学習目標を「分かりやすい構造化の方法を探ろう」と確認することができる。

(4) 目標関連図



(5) 本時の実際

時間	学 習 過 程	指 導 ・ 援 助 の 留 意 点	研究との関連
	スタート	<導入> - 前時までに班で構造図をまとめさせておく。 - 構造化したものを基に、前時までの学習を想起させる。 - 本時の学習目標と学習の進め方を確認させる。 <学習目標> 分かりやすい構造化の方法を探ろう。	① 「構造化」による吟味・検証力の育成 - 構造図の語句や矢印などから関係を吟味・検証し、文章内容を推測させる。 - 推測した内容を、構造図にある語句や表現を用いて、構成を考えながら文章にまとめさせる。 - 構造化したものと文章化したものを吟味・検証することによって、もとの文章との整合性を確認させる。
3'	本時の学習目標と学習の進め方を確認する。 (⑩R, ⑨R)	本時の学習課題を確認させる。 <学習課題> どのように構造化すると、内容がより適切に伝わるのだろうか。	
1'	本時の学習課題を確認する。 (⑧R)		
10'	構造図を基に、文章内容を推測し、文章化する。 (⑦・⑥)	<展開> - 異なる文章を読んだ班の構造図を基に、語句と語句の関係や矢印の意味などを読み取り、文章内容を推測させる。 - 構造図の中の語句や文を接続語などでつなぎながら文章化させる。 - 構造図に対して疑問を明確にもたせるとともに、視覚的に分かりやすくするために付せんを貼らせる。 - 疑問に思ったところ → 赤色の付せん - なるほどと思ったところ → 黄色の付せん	
10'	構造図と文章化したものを比較し、互いに批判し合う。 (⑤・④)	異なる文章を読んだ班同士で、互いの構造図と文章化したものを比較させる。	
10'	構造図と文章化したものと、もとの文章を比較し、整合性を確認する。 (③)	- 赤色の付せんが付いているところを中心に、互いの構造図を批判させる。 - 黄色の付せんが付いている理由について、意見を出させる。	
13'	文章を構造化するための視点と方法を確認する。 (②)	構造図と文章化したものの整合性を確かめるためにもとの文章を読ませる。	② 「ことばの力」の共有化の工夫 全体を文章Aを読む生徒と文章Bを読む生徒とに分け、互いの構造図や文章を批判させる。
	どのように構造化すると、内容がより適切に伝わるのかについて、班で話し合う。	- 話し合いを通して気付いたことをまとめさせた上で発表させ、文章を構造化するための視点を理解させる。 - 語句と語句や文と文、段落と段落の関係を明確にとらえる。 - 事実と意見を区別して書き分ける。 - 要点を的確におさえる。	
	まとめることができたか。 No 補説 Yes (①)	<達成していない生徒への手だて> - 構造図の黄色の付せんが付いているところと文章を比較させ、構造化するための視点を確認させる。 <達成している生徒への手だて> - 構造図の赤色の付せんが付いているところと文章を比較させ、改善させる。	
3'	本時の学習をまとめる。 ゴール	<終末> 文章内容を構造化したり、文章化したりする活動を振り返らせ、構造化するための視点や方法を学んだ意義を確認させる。	